

## 懇親会 2018

**日時** 平成 30 年 11 月 11 日 (日)  
12:00 ~ 14:00 (受付 11:30 ~)

**会場** 水交会「クラブ水交」  
渋谷区神宮前 1-5-3  
電話 03-3403-2611

**交通** J R 原宿駅、東京メトロ千代田線・副都心線  
明治神宮前〈原宿〉駅  
いずれも駅から徒歩 5 分

**会費** 6,000 円 (学生:5,000 円)

※詳細は、同封した別紙のチラシをご覧ください。

# 藤棚

## 50号

世田谷区深沢 4-10-1  
東京学芸大附属世田谷小学校内  
青山附属同窓会  
<http://aoyama-dosokai.jp>

青山附属同窓会

検索

発行人 森 昭彦  
編集人 斉藤研一

### 青山荘のこれから

一九八八年(昭和六十三)卒 二組 金子 岳人

このたび、私を含む多くの卒業生が臨海学校で慣れ親しんだ千倉の青山荘を、私が経営する会社で取得しました。

学校関係者を含め、本件のためにご尽力いただきました皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

学校側との協議から一年近く、紆余曲折もありましたが、

小学校の卒業生として、仕事を通じて母校の歴史に触れ、何よりも母校と仕事ができたことは大変光栄なことです。

今回のことを通じて、学校関係者、卒業生、そして在校生のご両親にとっても青山荘について考えるきっかけとなったのであれば、それだけでも意味があったと思います。

卒業から約三十年の時を経て、自分の長男が小学生となり、次男を含めた子供たちにも青山荘を使つて欲しいと願ったことが、世代を超えて活用できるような施設にしたいという思いにつながっています。何度か家族連れでも行きましたが、実際に子供たちは楽しんでくれていました。

青山荘再生のコンセプトは、千倉町に子供たちの声を取り戻し、世代を超えて、仲間をはじめ多くの人々が集えるハブとなる宿泊施設を創る、です。

今後は、三十年前に臨海学校で訪れていたこの青山荘をその歴史とともに引き継ぐこ

(次頁に続く)



とにします。

今回こだわったことは、青山荘という昭和四十九年築の古い建物付きで土地を取得することでした。更地でどうかと言われてもお受けしなかったでしょう。

私はこの青山荘の建物も純粹に好きなのですが、気持ちだけで再生できるような簡単な話ではありません。

では、なぜやるのかという問いに対しては、ある種の腹括りがあつて、これを自分がやらなければ、おそらく青山荘が活用されることはないだろう、だったら卒業生である自分の手で何とかして手仕舞いしようと考えました。

これは私を育ててくれた母校に対する私なりの恩返しであり、青山荘の再生は千倉町を含む南房総市における地方創生・地域活性化の布石でもあります。

ですから、儲かるか儲からないかということではなくて、青山荘を活用していかに利益を生み出し、且つ地域・社会貢献もできるかという視点で捉えています。

当然そのための布石も打ち

だしています。まだ正式契約を締結しておりませんが、事業パートナーとして懇意先の株式会社アクタスを指名しており、工事から家具等に至るまで、全面的にご協力いただけることになっています。

また、南房総市商工課を中心に行政とも協議を重ねており、雇用の促進や市内で廃校再生プロジェクトを遂行する方々との連携等、地域での横のつながりを最大限活用し、地域を底上げできるような取り組みにつなげていきたいと考えています。

目指すべきは小学校のプレイベート施設からパブリックへということ、不動産は多くの人の手に触れ、活用されてこそ価値が磨かれ、生きるのだと考えています。

青山荘再生プロジェクトとしてはようやく途に就いたばかりですが、新たな歴史を刻むべく、強い意志をもってこのプロジェクトを推進していくつもりです。

最後に、青山荘に思いのある皆さまはもとより、ご家族ご友人を含めて、この青山荘再生プロジェクトをぜひご理解いただき、いくつかのハードルを超えて宿泊施設として再スタートする際には、ぜひ利用していただきたいと考えています。それが私にとって、青山荘にとって何よりの応援となります。

青山荘を通じて皆さまや皆さまの大切な方々とお会いできることを心から楽しみにしています。

(株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ 代表取締役)



## 青山荘売却のご報告

青山会 北村 敏郎

昭和四年完成の青山荘（今の建物は昭和四十九年竣工）は、移動教室や「海の家」等で利用してきました。平成二十三年三月十一日の大震災後、青山荘宿泊はなくなり、平成二十六年より運営維持費の予算計上はなくなりました。維持費は年約五〇〇万円を青山荘修繕費用基金より出費しています。

理事会で青山荘売却を決議後、平成二十六年二月に八十歳のOBが売却仲介を表明しました。学校・OBに好条件（できれば現状有姿で本校関係者が使用可能な形）で売却仲介を合意。以降進捗報告待ちでしたが、非採算の判断が大半で、候補者とは合意に至りませんでした。購入希望者経歴から断った案件もありました。

平成二十九年八月に同窓生である株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツの金子岳人氏より青山荘への問い合わせがありました。幼少期に親しみ青山荘に強い想いのある金子氏は、金融・投資等を扱い地域創生・活性化を推進する経営者です。九月の理事会で

購入意思表明し、青山荘資料を金子氏が検証しました。老朽化建物の、手続き上の不具合や売却価格等が交渉の障害になりました。

在校生・保護者は大半が青山荘行事に参加経験がなく、青山荘を知りません。私を含む青山荘経験者は想いがあります。未経験者は売却に好条件を望みます。新たに価格設定し、東京建物株式会社の第三者的協力の方針としました。

ただ、金子氏以外に学校・同窓生にとって満足できる売却先はないと確信しましたし、金子氏の想いも十分理解し感銘を受けていたので、金子氏への移管が真情でした。

二〇一八年一月二十九日に金子氏と合意、二月二十二日の臨時総会にて圧倒的多数の保護者の承認後、三月二十九日に契約締結となりました。

皆様からの青山荘修繕費出費はなくなりましたし、売却収入は学校・児童の為に大切に使用させていただきます。また、金子氏の千倉・青山荘プロジェクトにPTAとしても心から応援をしたいと思っております。



# 青山荘のあゆみ

幹事長 森 昭彦

今春は、早々と桜が満開になりましたが、附小では多くの桜を伐採したため、今までに比べ何となく趣が違っていました。桜プロジェクトに多くの皆様のご協力をお願いして、桜の復活をはかりたいと思います。

今年の卒業生から三十五人学級編成ですので、卒業生は一〇〇名でした。同窓会には途中で転校された方でも入会を希望された三名を含め、百三名の方を新たに迎え、四月十八日現在の会員数は一万三〇名、内住所判明者は七二五八名となっています。

さて、青山荘がついに学校の手から離れることになりました。詳しくは別稿に譲ります、ここでは青山荘の歴史を、四十年前よりさらに昔のことをご存じない方も多くなっていると思いますので、青山荘五十周年記念誌（昭和五十四年）によって年表形式でまとめてみます。

**大正2年** 保護者有志による青山荘臨海学校の前身、臨海団を鎌倉で開始（大正5年からは保護者会の主催）。

**大正15年** 千倉町の旅館で臨海学校を開設。

**昭和4年** 千倉町の有力者からの申し出を受け、町の朝夷小学校の改築の際の旧校舎の資材が無償で提供され、青山荘を開設。

地元の方々は、奉仕活動として青山荘建設の手伝いまでしてくれた。附小の子どもたちが千倉駅に着くと駅前にアーチがたち、朝夷小学校の子どもたちが出迎え、青山荘まで一緒に歩いてきたり、花火を上げたりと歓迎された。運動会、学芸会などで交換会も行われた。建物の修理、ふとん干し、帰った後の畳上げ、食器の始末など、青山荘の維持管理運営にも地元の方の大変な協力を得た。臨海学校開設期間二週間二回。

**昭和6年** 「青山荘の歌」（豊

田八千代作詞、吉田照十方作曲）が作られた。

**昭和9年** 青山荘前で子どもたちも綱を引き鯨を捕獲。

**昭和12年** 日中戦争が始まる。原宿駅に集合、明治神宮を遙拝の後、両国駅に。臨海学校開設期間は十二日間に。

**昭和14年** 開設期間十日間。

**昭和15年** 皇紀二千六百年を記念し、師範学校の書画の赤津隆助教諭より各部屋に部屋名に因んだ日本画の額が寄贈される（昭和49年の改築後食堂に飾る）。

**昭和18年** 戦時下、臨海学校開設の許可を当局に求める。既に配給制度が始まっており、米、砂糖などは持参。配給量不足のため、当時の町長から密かな援助をもらう。

**昭和19年** 閉鎖。青山荘前の砂丘に高射砲二門が据えられ、青山荘は沿岸防備隊の宿舎に。終戦後、満州からの引き揚げ者住宅として使用。立ち退き交渉は難渋を極めた。立ち退き後、大修理のために青山会が四十二万円を捻出（当時の給与所得者の平均年収が十二万円に届かない時代）。その後、隣接地の土地を寄付し

てもらい敷地が広くなる。

**昭和25年** 再開。以後参加人員の増加に伴い、増改修。

**昭和29年** 桐の間を増築し、さらに藤の間を加え、梅、竹、松、菊、桐、藤、桜の間がそろう。

**昭和33年** 開設三〇周年を記念し、保護者の門田ゆたか氏作詞、高田早穂見先生作曲、石野明夫先生振り付けの「青山荘音頭」が完成。記念式典を現地で挙行、町の有志の人たちが打ち上げ花火で祝福。

**昭和44年** 創立四〇周年を記念して食堂厨房、浴室、従業員室の改修、増築。

**昭和46年** 水泳指導のため、モーターボートを購入。

この頃から老朽化した青山荘改築の検討が始まる。この時点で青山荘関係の資金はほぼゼロとなっていた。

**昭和48年** 全面改築が決定、建築資金八千数百万円。青山会会員の全面的な協力と銀行借り入れで調達。

**昭和49年** 3月开工、7月に落成し利用開始。設計近藤正一氏（昭和18年卒）

**昭和54年** 6月、青山荘開設五十周年を祝う会。7月に五十周年記念誌が発刊。

以後既に三十九年経っていますが、その間の青山荘については、まだ多くの方の記憶の中にあると思いますので、これまでにしておきます。

平成二十三年に東日本大震災のために閉鎖されてから七年目に、一同窓生の志により、別な形で復活することになり、何とも嬉しさを禁じ得ません。



田中剛二さん（昭和十三年卒）からご提供いただいた絵葉書のうちの一枚。臨海学校での海水浴の写真と思われるが、詳細不明。

# 附属小学校の近況

副校長 栗原正治

2018

同窓会の皆様、いつも附属小学校をあたたく見まもりご支援をいただいております。ありがとうございます。

\*

開校から百四十三年目の春を迎えました。昨年度は、倒木の恐れありと二十四本の桜が伐採されましたが、大人クラブ等学校関係者有志の皆様から、若木を贈っていただき、校庭には植樹が進んでおります。濃淡あれども、今年も満開の桜を見ることが出来ました。

\*

昨年度は文部科学省が集めた有識者会議でも、附属学校のあり方が議論されました。それぞれの学校がこれまで以上に特色ある教育研究を行ってほしいとの意見が出されました。

\*

本校はもともと学校研究が特色の一つですが、更に存在感のある研究的発信を努力していこうという立場です。

これまでも、子どもの願いや求め、問いに基づく主体的な生活と学びを支えるために、「関連性を高める学習活動」「教師の見通しと手だて」「変容を促す評価」「切実感」「自己効力感」「学び続ける共同体」などをキーワードとして、教師が果たすべき役割について検討し、実践を重ねてまいりました。昨年度までの三年間は、特に「自分の学びに自信がもてる子ども」を育てるには何が大切なのだろうかと仮説生成型の学校研究に力を注ぎました。

さらに、子どもたちの育ちにかかわるすべての人たち、

保護者や地域の人たちも含めて「ともにひらく」学校のあり方を求めて研究の歩みをすすめております。卒業生の皆様も教育的な仲間・同人です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

\*

新学習指導要領という体裁にて、これからの十年に向けて文部科学省が打ち出した方針は、学びに向かう人間性の涵養が一つの重点となりました。これは、以前より本校の教育目標である「思い豊かに考え深くともに学ぶ」自律した共存性豊かな子どもを育もうという方針と重なりました。今後、その先の二十年後、五十年後に向けて、提案性のある研究を進めようと研究部を中心に構想を練っております。

これから時代は知的革命を越えていきます。来たる新時代がたのしみになるような学校研究提案をと考えます。それは、本校の伝統の土台の上にこそ立案できるとも思っております。

## 【先生の異動】

### ☆お送りした先生

#### ▽河野広和先生

五年間の人事交流期間を経て東京都に戻られました。

昨年度は大塚健太郎先生をランドクルーザーに喩えましたが、河野先生はシャープなスポーツカーという印象です。第三理科室を自分で設える。校内の会議資料を電子化する。大学に通って論文を書き、外国の学会で発表する。「簡単に」「スピーディに」実現する大馬力の瞬発力には、しばしば驚かされました。

文部科学省委嘱事業である「次世代の教育情報化推進事



4月12日の「入学の会」

業」の校内コーディネーターとしても活躍された河野先生。その事業報告書作成の際にも、教科横断的な汎用的能力として育つものは何かという視点から本校の学習計画の実際を一覧化し、さらに今後努力が求められるのであろう評価面にまで見通しを示してくださいました。本校の現在の研究的知見を「情報活用」というキーワードにて見事にまとめる手腕には感服するばかりでした。

今後のグローバルなご活躍を期待するとともに、立場違えども引き続き本校の先導もお願いしたく思っております。



# 幼い頃のある経験

元教諭 楠本善之助

私は、昭和四十年四月から十五年間を附属世田谷小学校で過ごさせていただきました。

教育現場を離れて、時間の経過を早く感じる昨今です。

幼い頃のあの太平洋戦争中のことの一部を皆さん方に知っていただくこともいいかなと、特に「疎開」のことをご紹介します。

東京が空襲を受け、各地でかなりの被害がありました。私の家の近くは、当初被害はありませんでした。空襲警報が鳴るごとに、上空を通過する爆撃機を、恐る恐る木の間に越しに覗き見していました。また、空襲はないといわれていた京都で、ちょうど床屋に居たとき、その店の外側の道路をグラマン戦闘機が機銃掃射したことに出会い、ドキッとなりました。

日常生活を安全にということとで、疎開が考えられました。東京以外の安全な生活がで

きる場所に親戚があれば、そこへ縁故疎開を、あるいは学校ごとに集団疎開をすることになりました。

私の場合は、まず学校が設定した、静岡県島田市の静光寺に集団疎開をしました。二学年上の兄と一緒に。クラス友達とも一緒に、先生方とも寝食を共にする生活を送りました。私たちは、両親と離れて生活をしたのです。

友達の手前、わがままを言えないので、我慢せざるを得ないことが出てきました。食事に好き嫌いがあるとか、夜尿症があるとか、友達の中にはかなり苦労している様子も感じられました。勿論、付添の先生方のご苦労は、計り知れないものだったと思います。でも、何とか皆で、仲良くして日々の生活を過ごしました。

三か月余り経って、祖父の住居の奈良県生駒郡富雄村へ、母、兄姉妹、私の六人での縁



故疎開になりました。父と二人の兄の三人が、東京の家を守ってくれることになりました。この村は、生駒山の麓にあり、神話の中での、神武天皇が大和の国を平定された時、道案内をするために飛んできた鳥がいたといういわれがあり、その鳥が「トビ」で、訛って「とみ」となり、「富雄」村ということになったというのを聞きました。

日々の生活は、慣れ親しんだ東京とはうって変わってしまい、日々心細い限りでした。ただ、転入先の学校の先生方は勿論、クラスの友達は気持ちよく接してくれて、よくいわれる、転入生いじめは一切なく、私は、クラスにすっくは入れる生活をするのができました。非常時だということとを、クラスの友達は、子ども心に感じ取っていてくれた

のでしょう。

東京での学校と違って、学校までの道のりは結構ありました。しかも、集団登校でしたので、集合場所が決まっています、定刻になると、「早く来いよ！遅いぞ！先行くぞ」と皆で大声を出して、学校へ元気で向かいました。学校までの途中は、田や畠が続いていました。

放課後には、友達と蝗取りを楽しみました。その蝗を食べるのだと聞いた時は驚きました。家に持ち帰ると、母が隣の家の方にその調理を聞いて、何とかそれを味わうことができました。

話は変わって、大阪が空襲にあった翌朝のことでした。紙などの燃え殻が近くの田畠にいっぱい散らばっていたのに驚きました。私が住んでいたのは大阪の隣の奈良だったので、生駒山を越えて、風に乗って飛んできたようです。

その後、三か月経って、京都市伏見区桃山の祖父の知人の家での間借り生活が始まりました。明治天皇の御陵である桃山御陵の近所の家でした。

近くには、宇治川が流れていました。日々の生活には、少しずつ慣れてきて、不自由なく過ごせるようになりました。しばらくして、「今日、重大な放送が昼にある」ということを聞きました。ラジオの前に皆が集まりました。それは、終戦のことについての天皇のお言葉でした。ほっとしたもの、それなら一刻も早く東京に戻りたいという思いになりました。

何とか京都から満席の東京行きの列車に乗り、自宅に戻りました。元の学校に行き、元気の友達と感激の再会ができました。残念なことに、校舎の一部は空襲で焼けてしまっていました。

幼い頃の太平洋戦争に関わった経験の一部です。

世界の平和に貢献する役割を担える、素晴らしい力のある日本の子どもを、力強く後押しできることを願っています。



## 米寿クラス会

一九四三年(昭和十八)卒 男二組 三枝 誠

昭和十八年卒業の我々男子二組は、今年(二〇一八年)一月、クラス会を開催した。

幹事の小林俊二君の決めた代官山の中華料理店に、井原國芳、小林俊二、三枝誠、高島二郎、中野直明の五名が集り、

食事をしながら楽しく語り合った。他に連絡の出来る七名にも声を掛けたのだが、彼らは欠席した。しかしそれぞれ近況を書いて送ってくれたので、席上皆で回覧した。

八年前に、我々は同学年の男子一組、女子組と共に、「傘寿」と名付けた文集を作った。四十二名が作文を載せた。今我々は八十六、八十七歳だが、

数え年では米寿になる。もう

これが最後の会になるかな等と言いつつ、しかし米寿の会を開けたことは、亡き原田先生もお喜びの筈などという話も出た。

これには後日談がある。約半月後、同学年女子組の木本さんに会う機会があった。二組が「米寿の会」をやったという話をしたところ、「私達は毎年クラス会をやっている。九十歳でも九十五歳でもやる筈です。」ということだった。女子組の常識では、「米寿の会」なんかはまだまだ当たり前だという感じだった。

## 好奇心は老女の栄養剤

一九四三年(昭和十八)卒 女組 木本 佳子

私たちの今年のクラス会も、今頃は無事に済んでいるはずです。昭和十八年卒女児(子)組。いま八十七歳と八十八歳の十数名。同級生は出はいり

五十名前後ですから、クラスの三分の一くらいが毎年集まっていることになります。この年齢になると、物故者、闘病中、老々介護、歩行不自由、



## 三十年ぶりの再会

一九八七年(昭和六十二)卒 二組 松林 真二

一昨年前の話になりますが、私たちが在学中、三・四年次に担任をしていた柳本先生のクラスで、約三十年ぶりのクラス会を行いました。当日は、先生が私達の後に担任をされた、下の学年のクラスと合同で行いました。また、父母も数名参加しました。

柳本先生は、その二クラス

の担任をされた後、附属小を去られたので、四年しかおりませんでしたが、とても生徒、その親からも慕われていた先生です。

今回のクラス会を機に、ある程度の連絡先が繋がったので、今後は定期的に開催したいと思っています。

## 自分を知るきっかけ

一九九六年(平成八年)卒

二組 根本(奥村)絵美

私は現在、「保育の女王ホイキーンそやんちゃん」という芸名でコメディパーパフォーマーとして活動をしています。

パフォーマンスの内容はダンス、大道芸、お笑いが混ざったもので主に保育園やイベント

など子どもが集まる場所で活動をしています。その中の童謡「チューリップ」の曲をアレンジして作ったおなら体操は人気のネタのひとつです。

こんな自分があるのは、附小時代のお陰だと改めて思うのです。

私は附小卒業後、中学から大学まで美術の学校に通いました。大学卒業後は保育士をしました。保育園で私は子どもたちに何を伝えたいか、どんな先生で接していたのかと今振り返ってみると、私は子どもたちにありのままの自分の力を発揮してほしいと願い、

そして私は何かを教える先生ではなく、一人ひとりの良き個性を発揮できるようにサポートする人でありたいと考えていました。それは附小時代に頂いた時間であり、そのように接してくださって

いた先生方の姿だと気がつき、なんて有り難いことだと改めて感謝致しました。有難うございます。

しかし、同時に今の自分はどうかと思うと、社会で教わった良い形というものに捉われてしまっていて、もっとあり、



連絡先不明、遠方居住、無関心、不快感情等々、欠席理由も多岐ですから、この出席数や、あつぱれ。「レディ・ギネス」ありや。

クラス会は七十数年盛況だったのか。私見ですが、そうでもないらしいのです。私自身、二十代から五十代での集まりの記憶はありません。不規則な職にあったからばかりでもないようです。記憶は信州や伊豆などの一泊会に始まります。ある年、来年の会をロサンゼルスで、と提案した人がいました。クラス会帰りの車内でバタバタと決定。長くロスで暮らしている同級生を訪ねるというわけでした。幹事二人も即決。実行力のあるTさんとSさん。

私たちは当時七十代なかば。十三名が参加しました。旅行会社の方は、「本当に七十代ですか。こんなに楽なシルバー・ツアーの添乗は初めてです」と驚き、喜んでいました。(勿論いささかの例外はありましたヨ)

ロスの遊園地の電気怪獣に悲鳴を上げる老女集団の証拠

写真がないのは、残念なことです。

さて、クラス会で盛り上がる話題のピカイチは、わが身の老化による失敗談の数々。これは一同大喜び。ネタは無尽蔵です。そして、このあいだ観た芝居について、新しい店の新しい味、メは近頃の安倍総理。病氣自慢や家族知人の自慢は、あまり好まれなようです。

おしゃれだがシブい。稽古ごと好き。そしてその集まりの世話も得意。質のよい好奇心を持つ。欲張り。長生きしそうな集団に思えます。



UCLAのシンボルの前

\*集合写真掲載の連絡がつかない方がありました。ご了承ください。(写真 田中茂子)

のままの自分の力が発揮できるのにもつたいないと思ひ、今のコメディーパーフォーマンズの活動が始まりました。

活動を始めますと、自分が生まれ変わったように心が晴れ晴れとしていて、小学校の頃の気持ちに戻っていると感じました。自分自身の力を信じて、大切にして、そして考え、努力し、やってみる。この小学校のときには当たり前にあった時間だったと思ひ、また今取り戻しているところです。

附小での友達のを思い出しますと、それぞれ歌、楽器が好き、人前でしゃべるのが好き、絵を描くのが好き、インタビューしてくるのが好き、実験するのが好きなど、それぞれの好きなことがたくさん思ひ出されます。自分の好きな形で力を発揮していい授業だったので、友達がそれぞれのスタイルで輝いている姿をたくさん見ることができました。

ですので、私は、学校も先生も自分をいつも応援してくれていて、輝かせてくれる存在だと感じていました。

学ばばかりではなく、自分の思った形で実際にやってみること、そして披露することは自分の魅力を知ることができまふ。人にも伝わりまふ。同じように、人の魅力も感じることができまふ。個々の魅力を大切にできる、生きる力をつけてくださった附小の先生方に心より感謝してまふ。

今後より一層、附小で培った生きる力を発揮して、フォーマーとして笑いとメッセージを発信してまふ。そして、そんな私のHPも小学校時代の友人が作ってくれたものです。とても素敵なのでぜひご覧ください。

◆HPのアドレス

<http://www.hoiqueen.com>



## 平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

## 2. 経常会計(単位:円)

| 収入         | 金額         | 支出          | 金額         |
|------------|------------|-------------|------------|
| 前年度より繰り越し  | 14,181,164 | H27藤棚印刷費    | 430,100    |
|            |            | 名簿印刷費       | 1,788,464  |
| 会費入金       | 2,475,000  | キーホルダー      | 0          |
|            |            | 回線使用料       | 66,725     |
| 銀行利息       | 281        | データ管理費      | 179,496    |
|            |            | 事務手数料       | 230,400    |
|            |            | H27藤棚・名簿発送費 | 1,197,826  |
|            |            | 通信費・はがき印刷代  | 2,992      |
|            |            | 事務用品費       | 3,124      |
|            |            | 慶弔費・交際費・会議費 | 15,681     |
|            |            | 交通費         | 0          |
|            |            | 振込手数料       | 33,190     |
| 平成27年度収入合計 | 2,475,281  | 140周年記念式残費用 | 0          |
|            |            | 会費返金        | 0          |
|            |            | 本年度支出計      | 3,947,998  |
|            |            | 次年度へ繰越      | 12,708,447 |
| 合計         | 16,656,445 | 合計          | 16,656,445 |

## 1. 同窓会基金(単位:円)

| 収入        | 金額        |
|-----------|-----------|
| 前年度より繰り越し | 3,303,683 |
| 銀行利息      | 826       |
| 証明書手数料    | 216       |
| 合計        | 3,304,293 |

## 3. 資産の部(単位:円)

| 明細        | 金額         |
|-----------|------------|
| 同窓会基金分    |            |
| 三菱UFJ信託銀行 | 3,304,293  |
| 合計        | 3,304,293  |
| 経常会計分     |            |
| 三井住友銀行    | 4,650,563  |
| ゆうちょ銀行    | 7,921,964  |
| 現金        | 135,920    |
| 合計        | 12,708,447 |
| 基金+経常会計合計 | 16,012,740 |

会計監査承認 会計監事 吉原重和 松本洋典

### 附小さくらプロジェクト 始動

前号で、附属小学校の敷地の桜の植樹活動を推進するための事務局メンバーを募集したところ、お二人の同窓生が名乗りを上げてくださいました。他で同様のプロジェクトに参加された経験をお持ちで、とても心強い限りです。

そして、伐採後の桜の木を加工して記念品を作成するなどの構想が持ち上がりました。引き続き、一緒に活動していただける方を募集しております。同窓会までご一報ください。

また、入学式で学校からいただいた桜の苗木にまつわる思い出や情報がありましたら、是非、同窓会にお寄せください。お待ちしております。

### 祝「藤棚」五〇号

昭和三十七年四月十日、同窓会再建第一回の総会に先立って、『会報』第一号が発行されました。次号では、『藤棚』の歩みを振り返ってみたいと思います。

## 第7回「緑友美術展 2019」開催のお知らせ

附属世田谷中学校の同窓会・緑友同窓会が主催する美術展が、下記の日程で開催されます。附属小学校の同窓生も出品されていますので、是非、足をお運びください。

会 期：2019年(平成31年)2月11日(月)～17日(日)

\*12日(火)は臨時休館日

会 場：世田谷美術館区民ギャラリー

連絡先：「緑友美術展事務局」

〒222-0012 横浜市港北区富士塚 1-13-5 塚本隆一

Tel/Fax: 045-401-5756

E-mail: rich.tkmt@gmail.com

クラス会開催の報告記事を募集しています！  
掲載を希望するクラスは、ハガキかメールで、  
同窓会までご一報ください。  
後日、折り返しご連絡いたします。

同窓会メールアドレス

aoyama-dosokai@edit.ne.jp

### ◆本年度の同窓会役員

会 長 庭山正一郎(昭和三十三年)  
幹 事 長 森 昭彦(〃三〇年)  
会計監事 吉原重和(〃三五年)  
松本洋典(平成八年)  
常任幹事 小野聖穂(昭和二十九年)  
幣原 廣(〃三七年)  
一力健一郎(〃五〇年)  
岡市典子(〃五三年)  
斉藤研一(〃五四年)  
野口尚志(〃六三年)  
瓶子可南子(平成八年)  
日野真毅(〃二五年)